



石狩地域森林ふれあい推進センター

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年・3年は各種行事の実施が見送られてきた中、令和4年度は予定していた行事をほぼ実施することができました。

【森林教室】

○第1回森林教室

(定山溪小学校・中学校)

定山溪の三笠地区にある国有林で「身近な自然を観察しよう・保護しよう」と題し、小学生・中学生合同でこの地区に自生している植生(カタクリ・エゾエンゴサクなど)の調査を行い、自分たちの住んでいる地域の植生に関心を持ってもらう取り組みを行いました。

○第2回森林教室

(定山溪小学校)

当日は生憎の雨となったため屋外活動をあきらめ、屋内で「子ども樹木博士認定会」を実施しました。

職員が午前中に定山溪の国有林で採取した葉っぱ等を用いて、午後の森林教室で樹木の葉の形や特徴などの説明を行いました。

その後、子どもたちは、認定試験に臨み、職員からの説明を思い出しながら解答し、それぞれ正解数に応じた級の認定を受けました。



子ども樹木博士認定会の様子

○第3回森林教室

(定山溪中学校)

「生徒が描く森林づくり」と題して夢の森づくりの取組を実施しました。

好天に恵まれ、広場・植栽箇所、草刈り、ウッドチップ散布や老朽化した鹿食害防止柵の撤去、昨年設置した葉箱の整備などを行いました。

○第4回森林教室

(定山溪中学校)

今年度2回目の「夢の森」での活動は、前回に引き続き降雪で傷んだ鹿食害防止柵の撤去と自生したニセアカシア(外来種)の除去、昨年度植栽した箇所の生育調査を行いました。

また、生徒の発案で森の中に自分たちで作成したベンチを設置し、森でひと息つける場所を設けました。



設置したベンチ

【野幌森林再生プロジェクト】

平成16年の台風18号の被害跡地にボランティア団体が植栽・保育等の作業を行っています。今年度は、ほぼ保育作業のめどがついたので、生育調査などが実施されました。

また、野幌森づくり塾の活動は、3回(風倒被害地への植栽、外来種駆除、保育作業等)実施しました。

ほかにも団体型森林づくりに参加する団体等の相互の取組状況の共有の場として「野幌森林再生活動連絡会」を設置しており、3年ぶりに対面で会議を開催し情報交換などを行いました。

【札幌水源の森づくり】

今年で17回目を迎えるこの取組は、◇街の中で一人一本苗木づくり、次代へ引き継ごう「水源の森」◇として市



苗木ができたので「ボールミニコン」で作った市民ポット

民に水と森林のかかわりを普及啓発するため、市民による苗木づくり、協力団体による定山溪の国有林で植栽、下刈りを行っています。今年度は3年ぶりに開催することができました。創成川公園において市民約200名に苗木を作成していただき、国有林へ植栽することができました。

また、過去に植栽した箇所の下刈りは、協力団体の人数も減る中センター職員総出で下刈りのお手伝いを行いました。

センターでは、野幌の森林再生、定山溪の水源の重要性の普及などについて市民の皆さんに楽しんでもらいながら、取り組んでいきたいと考えております。